



胃癌取扱い規約改訂に伴う胃生検 Group 分類変更についてのお知らせ、 並びに、報告内容の変更についてのご案内

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本年3月10日に日本胃癌学会発行の胃癌取扱い規約が改訂され、**胃生検の Group 分類と表記方法が大きく変更されました**。当社もこれに準じて報告内容を変更させていただきますのでご案内申し上げます。(Group 分類以外の内容のご紹介は省略させていただきます)
早急な対応が求められる事から、急ではございますが下記日程で変更させていただきますので何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白



項目名

組織1臓器標本作製診断 ~ 組織3臓器標本作製診断

(依頼コードNo. 5961 ~ 5963)

変更日 2010年4月30日(金) 受付分より

対象材料：胃内視鏡生検材料 (EMR, ESD等の剥離材料、polypectomy材料、手術材料等を除く)

主な変更内容：表記の変更：例 Group Group2 (ローマ数字から算用数字に変わります。)
グループ分類基準の変更：詳細は下記対比表をご確認ください。

【旧Group分類と新Group分類の対比表】

旧Group分類 (第13版, 1999)		新Group分類 (第14版, 2010)	
これに相当する分類はなし		Group X	生検組織診断が出来ない不適材料
Group	正常組織および異型を示さない良性(非腫瘍性)病変	Group 1	正常組織および非腫瘍性病変
Group	異型を示すが良性(非腫瘍性)と判定される病変	Group 2	腫瘍性(腺腫または癌)か非腫瘍性か判断の困難な病変
Group	良性(非腫瘍性)と悪性の境界領域の病変	Group 3	腺腫
Group	癌が強く疑われる病変	Group 4	腫瘍と判定される病変のうち、癌が疑われる病変
Group	癌	Group 5	癌

注) 4月28日受付分までの報告は旧分類で報告いたします。変更後数日間は旧分類と新分類による報告書が混在することが考えられますので、ご了承賜りますようお願い致します。

新・旧分類の区別は、「ローマ数字」か「算用数字」かでご判断願います。

裏面に続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3

総合研究所：〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1

☎ 049(232)3131 FAX 049(232)3132

今回の改定により最も解釈の変わるGroup 2の意味についてご説明いたします。また、ご参考まで臨床的対応例、及び報告の記載例についてご紹介いたします。

(第14版胃癌取扱い規約より引用)

今回の改訂で大きく変更となったのはGroup 2である。

これは再生などの非腫瘍性異型と腫瘍性異型の区別が困難な病変で、具体的な診断名としてはIndefinite for neoplasiaとされる。具体的には以下のようなものが含まれる。

1. 異型細胞は見られるが、組織量が不十分で、細胞異型から腫瘍性病変と判断が困難である。
臨床対応：再生検による確定診断が必要
2. 異型細胞は見られるが、びらんや炎症が強く腫瘍と非腫瘍の区別が困難あるいは躊躇される(明らかなびらんの所見がなくても、反応性変化として高度の異型を認めることもある)。
臨床対応：消炎治療後あるいは経過観察後の再生検
3. 異型細胞が存在するが、組織の挫滅や変性が強く、腫瘍と非腫瘍との区別が困難である。
臨床対応：再度内視鏡による生検と確定診断

病理診断報告の具体的な記載例

生検診断の際には診断名を記載し、その後にGroup 分類を併記する。

- Indefinite for neoplasia, Group 2
- Tubular adenoma (intestinal or gastric type), Group 3
- Suspicious of adenocarcinoma, Group 4
- Well differentiated tubular adenocarcinoma, Group 5